

明宝小川地区の地域づくり（郡上市）

農山村

景観・産業

取組の背景

旧明宝村（現郡上市明宝地区）は岐阜県のほぼ中央に位置し、「小川区」は村の中心部とは小川峠（標高 912m）で隔てられ、車で 30～40 分の距離にある。

小川区の人口は約 250 人、戸数は約 80 戸で、耕地は 18ha と総面積の約 0.4% に止まり、大部分は山林となっている。

小川地区の地域づくり活動の始まりは、昭和 47 年に行った「小川小学校での花壇づくり」頃に行きつく。

活動が全国表彰されるなど評価され、「学校から地区全体に活動の輪を広げよう」という機運が地域の中に芽生え、いくつかの地区花壇や峠の花壇が出来上がった。花壇づくりは、環境美化活動へと幅を広げながらその後 30 年にわたって続いている。

地域づくりは、区と青年団が中心となって進められてきたが、平成元年に、当時の 20 代から 50 代の有志 18 名が、「21 世紀に夢と希望が持てる住みよい小川地区」にしようと 21 会を結成。平成元年には 20 代の若者が集まり「区若会」を組織し活動を展開してきた。

しかし任意の団体では活動内容、範囲、区民の協力が制限されることから、この 2 つの組織が区に働きかけ、平成 11 年に区の下部組織として「小川ふるさとづくり委員会」が設置された。

取組の概要

小川区の地域づくり活動は、活動の企画・立案を「小川ふるさとづくり委員会」が行い、活動は区が中心となって進められている。

その他、演劇クラブ、民謡クラブ、農産加工グループ組織である「こぶしの里」、都市農村交流体験施設である「小川きの里」の運営を行う「小川ふるさと活性化委員会」などの活動団体があり、連携しながら地域づくり活動を進めている。

取組の内容

①農村景観の保全

高齢化等により水稻の栽培管理ができない農

地が出てきていることから、区や農事改良組合が相談に乗って受託できる農家を斡旋し、耕作放棄地の防止に努めるほか、花壇の整備や、県道沿いへの植栽も行っており、良好な農村景観の保全・創出を図っている。

②加工品づくり

平成 6 年に地区の婦人が集まり、使用しなくなった消防詰所を改造して農林産物の加工を行うグループを立ち上げ活動がスタート。漬物、笹すしなどを生産し販売している。

③交流拠点施設の運営

平成 15 年 4 月にコテージ「小川きの里」がオープン（新山村振興等農林漁業特別対策事業）。管理運営は出資した小川区民で構成される「小川ふるさと活性化組合」が行っている。

また、毎年 8 月には区主催による「あゆまつり」を開催している。



小川きの里

④神社の森整備と遊歩道づくり

小川地区にある白山神社は、山の中腹にあり階段が急でお年寄りの参拝が困難であったため「ふるさとづくり委員会」で遊歩道を整備。

遊歩道ができたことにより、白山神社の森の散策が容易になったことから、森に自生する植物や樹木がだれでもわかるようにと名札を設置。「小川きの里」を利用する人も、気軽にトレッキングが楽しめるコースとなっている。

⑤小学校と連携した取組

小学校では昭和 47 年の花壇づくり以来、伝統的に花壇づくりに力を入れており、父母に加えて委員会のメンバーも一緒になって取り組んでいる。

また小川地区には手作りのスケートリンクがあり、冬季には父母や地区の人が当番で氷張り作業を行っている。

さらに運動会も小学校と区が合同で開催し

ている。

その他、鳥獣害対策、伝統文化の継承などに、区が関係団体と連携協力しながら取り組んでいる。

成果

○継続的な活動の実践

昭和 47 年の花壇づくりに始まり、継続的で息の長い取組が、地域が一体となってなされている。小川地区の取組は、平成 15 年度の「豊かなむらづくり全国表彰事業」において内閣総理大臣賞を受賞している。

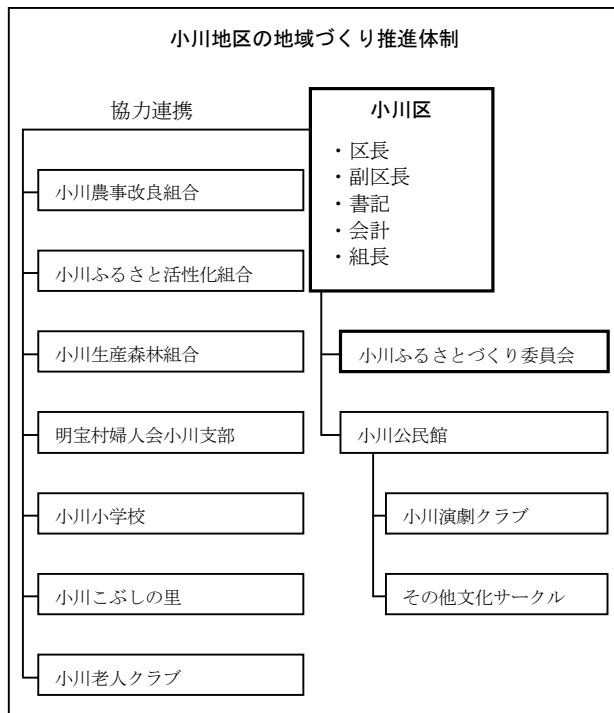
○交流拠点の整備

15 年にオープンした「小川きの里」は、リピーターも多く、当初予定していなかった冬季の宿泊客も訪れるなど比較的好調であり、交流拠点施設として、更なる活用が見込める。

また、平成 2 年から始まった「あゆまつり」は小川地区の住民のみならず、地区外からも多くの人が訪れる、小川地区の一大イベントに成長した。

成果の要因

区を中心として、様々な組織が連携しながら地域づくりを進める体制が整備されており、そのことが継続的な息の長い取組につながっていると考えられる。



今後の課題

○地域経済への波及

地域づくり活動が継続的になされており、交流拠点も整備され、イベントも好調であるが、そのことを、いかに地域の経済的な発展につなげていくかが課題。(小川ならではの特産品の開発など)

○鳥獣害対策

鳥獣害対策に取り組んではいるが、依然被害が大きく、さらに対策を進めていく必要がある。

○空家対策

増えつつある空家をどうしていくか？検討が必要。

行政への期待

○アクセスの向上

小川峠のトンネル化計画があり、現在取り付け道路の工事がなされているが、早期の実現を望む。

○地域づくりへの支援

明宝村が合併し、郡上市となったことで、これまでと同様の支援は困難とは思いますが、きめ細かく対応して欲しい。

この人にお話をうかがいました！

小川ふるさとづくり委員会

委員長 山口忠次さん

調査日：平成 18 年 11 月 21 日 (火)

調査者：総合政策課 佐藤、板津

中濃振興局中濃事務所 森